

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成23年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし「入居者が主役スタッフは脇役」の標語のもと尊厳をもって介護している。
②海と山とミカン畑に囲まれた1000坪の広々とした土地に有りながら国道やスーパーにも歩いて行けるので利便性がある。③学童が併設され1年中、子供たちの元気な声がする。④キリスト教理念で経営されており納骨堂が完備されている。牧師が居るので希望すればチャペルでの葬儀も可能である。⑤看護師、介護員が連携したターミナルケアに取り組んでいる。⑥血液サラサラ食である野菜・海藻・豆類・イモ類を中心に朝昼晩ともに、1汁3菜に果物を付けた献立を工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「夕暮れ時にも輝く人生」という理念の下、職員はいつまでも好きなことができ輝いてほしいという気持ちでいつも笑顔を決やさず支援している。また、言葉遣いにも注意し言葉による拘束はもちろん利用者への尊厳にも配慮されている。利用者の地元で馴染みの人と会う「ふるさと訪問」という支援や食事のメニューはその日の食材で決め、毎日おかずは3皿用意するなど特出する点は多い。敷地内にはチャペル(納骨堂)もあり利用者はもちろん地域の方の納骨も行い地域への貢献度も高い。管理者はその人柄からか職員との距離が近く言いたいことが言い合える関係となっており風通しの良い組織となっている。利用者の介護度が上がっているなか、食事の準備や洗濯物たたみ、掃除など利用者が力を存分に発揮できる理念の浸透した事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし管理者と職員はその理念を共有するために毎朝のミーティングで「今日の言葉」を読んで理念につなげている。	「夕暮れ時にも輝く人生」という理念には、年をとっても輝いてほしいという意味が込められており、それを現場で実践するため利用者の笑顔を引き出すことやできることをしてもらおうよう支援している。また、毎朝、キリスト教の教本から一言ずつ読みあわせを行い支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーに買い物に行ったり、公民館の花の水やりをしたり、散歩などを通して交流を図っている	保育園や小学校等の運動会に参加したり、夏祭りを開催し地域の方々に来てもらっている。また、学童に部屋を貸しており日々小学生との交流も行っている。近隣のコンビニや公民館にプランターを置いてもらい毎日水やりを行うなど日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、民生委員や地区長を通して認知症の理解や支援の方法を話している。今後ネットワーク作りも考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状況や実情を開示し話し合いを行って意見を取り入れている。ターミナルケアやひやりハットや評価の取り組み状況についても話し合っている。	会議には区長や市職員など規定のメンバーが出席し2ヶ月に一度実施していることを議事録で確認した。内容は日々の状況やグループホームの役割、認知症への対応などである。また、地区の老人会に参加し介護の話をするなど会議での意見の反映がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者も出席して頂き、状況を説明している。	市町村の担当者は運営推進会議に参加してもらっている西海市長寿社会課職員と決まっているが、介護申請や届出など以外には接点はなく協力関係を築くような取り組みは見受けられない。	市の担当者が運営推進会議のメンバーであるため事業所の状況等は把握しているが、日頃から連絡を密に取るなど協力関係の構築に期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会があり、標語を作り毎朝唱和している。	身体拘束委員会を設置し年に4回の研修を実施している。研修では言葉による拘束も含めケアの中で拘束をしていないかをチェックしている。また、3ヶ月に1回拘束を意識した標語をひとつ決め全員で唱和している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ではないかと思われる言動がある場合は、早めに事実の確認を行い表面化して、社内研修をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度についての研修があれば積極的に参加するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、理解納得をしていただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や、運営推進会議・家族会を通して意見が言える場を設けている。	利用者や家族が意見や要望を表せるよう事業所内や行政などの外部に機関を設置している。面会時はもちろん家族会等でも意見を伺うようにしている。家族より病院の受診支援をしてほしいとの要望があり支援するなど運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティング、月1回のスタッフミーティング、年2回の管理者とのミーティングを通して職員の意見を聞くようにしている。	職員は職場目標シートに目標を立て自己評価し管理者と面談することになっている。この面談のほかスタッフミーティングなどで職員からの意見を聞いている。職員が意見を出しやすい環境となっているが要望が運営に反映されるケースは少ない。	職員からの意見や要望は管理者の対応により言いやすい状況となっているが、意見や要望が反映できていない場合がある。要望等は内容を十分に検討し実現可能な場合は反映できるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場目標シートを作成し、本人の目標を聞いている。資格をとった職員に対しては忘年会会場にて表彰をしている。スタッフ同士が楽しく働けるよう外食会やボーリング大会をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員を設置し法人内外での研修を計画している。ヘルパー2級をとりたい方に対して経済的援助をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会を作って相互訪問をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接して困っていること、不安な事を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族と面接して困っていること不安な事を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、必要に応じて他の施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望を聞き、その方の得意とする分野で役割を担っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にいただくため、外泊や外出を進めたり、行事に招待したり病院受診に付き添っていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が住んでいた地元に戻り、馴染みの人と顔を合わせる事ができるようにしている。 (ふるさと訪問)	利用者の生活歴等は利用開始時に本人や家族に聞き取り利用者毎の基本情報として関係継続の支援に利用している。利用者の誕生日に地元に戻り友人や知人を呼びお祝いをする等の支援をしている。お墓参りや親類の結婚式への参加支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもらず、リビングにて全員がかかわりを持つよう心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も施設や病院を見舞ったり、電話をかけたりして支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や要望を把握し、それに沿った暮らし方を支援している。	普段の見守りや衣替え時の居室・入浴中に職員が利用者の希望や意向を聞き取っている。その内容は業務日誌や利用者の記録として記載され申し送り時等に職員全員で共有している。把握が困難な場合は利用者の表情や行動で把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやその方との会話を通して生活歴の経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排尿チェック表や水分摂取量、バイタルなどを通して変化に気づくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じて本人、スタッフ、ケアマネジャーで話し合い、介護計画を見直している。	利用開始時に本人・家族の希望や医師等の意見を取り入れて計画を作成している。その後3ヶ月又は6ヶ月毎に見直しを行っているが、状況に変化がある場合には計画の見直しを行っている。ケアプランの実施状況はチェック表等で毎日に確認されている。ケアプラン見直し後に家族からの内容確認が記録されていない。	介護計画の見直しは定期的または随時行われているが、見直し後の利用者・家族からの内容確認における署名・押印が見受けられないため、確認したことの証明となる署名・押印をとることを希望する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、気づきノートなどを通して情報を共有し、ケアプランに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況やニーズに応じてふさわしい施設を一緒に探す努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の一つである社会福祉協議会のデイサービスや真珠園のデイケアを利用している。また近くにあるスーパーにも歩いて買い物に行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回かかりつけ医の訪問診療があり、変化があればいつでも相談できる関係をきづいている。	かかりつけ医を継続した場合は原則家族が通院支援を行うようになっている。協力医療機関の医師からは24時間体制での対応も得られている。月に1度の訪問診療がある。受診した際は受診ノートに内容が記載され記録の共有化がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化があれば看護師に相談し、看護師を通して医師に連絡してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入居者の状況を医師や看護師に説明している。面会にもできる限り行っている。可能ならば1か月以内の退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に急変時と週末期のケアについて説明している。	重度化した場合における看取り指針を作成し利用開始時に説明をしている。また、利用者の状況の変化に応じ再度説明し同意書・契約書を受けている。看取りの経験も有り職員も対応に不安は見られない。看護師が常勤していることも支援への取り組みが出来ている要因となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一回消防署による救急法を開催し、施設内で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年に3回行っている。	年3回実施されている。うち1回は消防署の立会があり、夜間を想定した訓練も1回行われている。近隣住民へは消防署通報時に連絡が行く装置がある。避難場所が同一敷地内であり避難者数に比べ狭い様に思える。非常食・水・備品等の備蓄は検討しているが実施されていない。	避難訓練は定期的には実施されているが、避難場所が同一敷地内であるため今一度避難場所に関して検討することを希望する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけができるよう朝礼で「今日の言葉」を読んでいる。標語を貼ってスタッフが毎朝唱和している。	トイレ誘導時の言葉使いでは職員だけがわかる隠語により対応工夫をしている。個人情報事務所に引き出しに保管しており、守秘義務の指導は入社時に教育後誓約書をとっている。また、事業所便り等への写真掲載については利用開始時に家族からの同意を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	料理のメニューを聞いたり外出したい場所を聞いたりして、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせてその人らしく過ごせるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時はみだしなみや、お化粧でお洒落ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や手伝い・下膳など出来ることはして頂いて利用者と職員と一緒に準備や片付けしている。	利用者と職員が同じ物を共に食べながら、介助支援を行っている。メニューは各ユニットで異なるが、健康に注意し野菜中心のものになっている。職員は利用者の嗜好やアレルギーの有無を把握しており、不向きなメニュー時は代用食を準備している。また、利用者の状況に応じて刻み食等食事形態の工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量を計測し、バランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録し、排泄パターンを把握し失敗の軽減に努めている。	排泄の失敗を防ぐため、排泄チェック表を用いて利用者それぞれの排泄パターンをつかんでいる。自尊心に配慮しつつ、利用者の様子から敏感に察知し、身体機能に応じた介助を行っている。昼間はできる限りトイレでの排泄を大切にしながら布パンツを使用している。夜間はポータブルトイレで対応している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い野菜食を提供している。便秘時には腹部マッサージをしたり、水分補給に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯は決めて行っている。	入浴準備は毎日、利用者の健康状態や意思を重視しながら、ひとり週3～4回の入浴支援を行っている。入浴を拒否される場合は、声かけや対応を工夫して、本人の意向に沿った入浴ができるように支援している。子供の日には菖蒲湯にするなど入浴を楽しむ工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は居室で休息できるように支援している。不安を取り除いて安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	睡眠薬や緩下剤は利きすぎないように調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が張り合いのある仕事を積極的にしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	同窓会や結婚式など本人が希望すれば参加していただいている。	事業所の周囲は自然がいっぱいで環境が良い地域である。天気が良い日は近隣のスーパーや周辺を散歩している。利用者の希望により、事業所のワゴン車で車椅子の方も含めて、弁当持参で花見等に遠出することもある。利用者の孫の結婚式に出席するなどの支援も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	高額商品を希望する場合は職員が付き添って買い物同行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子供に電話をしたり、手紙を受け取ったりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングに植物を置いてやすらぎを与えている。月に1回生け花をしている。温度調節で暑すぎず、寒すぎないように配慮している。	広々としたリビングには、畳のスペースやソファがあり、掃除が行き届いており清潔である。食卓テーブルやソファの配置は、車椅子での移動がスムーズにできるよう工夫がされている。音・光・室温・湿度等は職員が調整を行い、自然でゆっくりくつろげる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが広いのでそれぞれが自分の居場所を持っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人が居心地よく過ごせるよう、自宅から好きなものを持ってきている。	ベットは備え付けで利用者の使い慣れた物が置いてある。壁に家族の写真を飾ったり、思い出の品々等が持ち込まれ、それぞれの部屋が個性的で居心地良く過ごせる配慮がなされている。夜間のみポータブルトイレを利用する場合、昼間は見えないようにカバーを掛けたり、倉庫へ収納するなどの工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	カレンダーを手作りし、日にちを理解してもらっている。		